

将来を見据え前進、地域に貢献！

グループ名：沿岸電子機器・精密機器グループ

取 材 先：大村技研（株） 岩手工場 千葉 康弘 工場長（岩手県北上市）

大村技研（本社・横浜市）は、薄型TV、PC、デジカメ、携帯など日常生活に欠かすことのできないデジタル機器・家電に組み込まれる精密電子部品を製造。



●震災の被害は？

主力生産拠点だった釜石市の東北5工場全てが、津波で損壊するなど壊滅的な被害を受けた。従業員は230名弱いたが、震災直後は操業できる状況ではなかったため、社員の手元に少しでもお金が入る形を検討し、一旦解雇し、操業再開後再雇用する形を取った。

●グループ補助金を活用された感想は？

宮古、釜石、大船渡の関連企業と共同でグループを形成し、補助金を申請した。当社は、昨年7月頃、現在の北上産業業務団地の貸工場に生産拠点を移すことを決定し、事業の再開に必要な生産設備の導入と新工場に入れる設備に補助金を活用した。移転費用約10億円のうち、約7億円の補助決定を受け、事業の拡大に非常に役立っている。昨年5月頃からは、休眠していた長野の駒ヶ根工場に、再雇用メンバーを集め操業開始した。岩手工場では、従業員26人うち22人が再雇用で働いている。操業規模は、2工場合わせても震災前の半分以上。4月には同団地内に新工場が完成し、稼働予定で、将来的には、従業員も今の3倍の約70人に増やす方針。

●復興への思い

社員の皆さんは、ほとんど単身赴任で大変だと思う。企業として雇用を守ること、社員の家族を守ること、会社として今できることを精一杯やっていきたい。震災後色々な方々、色々なところで支援を受け、復興を進めることができています。社員の平均年齢は若く、パワーもある。今後、技術的にも高いレベルにチャレンジしていきたい。自分達は足踏みしてられない。どんどん前へ進めていき、地域の雇用や色々な面で貢献できればと。



北上産業業務団地内の貸工場（岩手工場）

『地域の人々と共に』を新たに！

グループ名：シーサイドタウンマストグループ

取 材 先：大槌商業開発（株） 小山 敏昭 専務（岩手県上閉伊郡大槌町）

ショッピングセンター「マスト」は、平成5年にオープン。大槌町の重要な買い物拠点。



●震災の被害は？

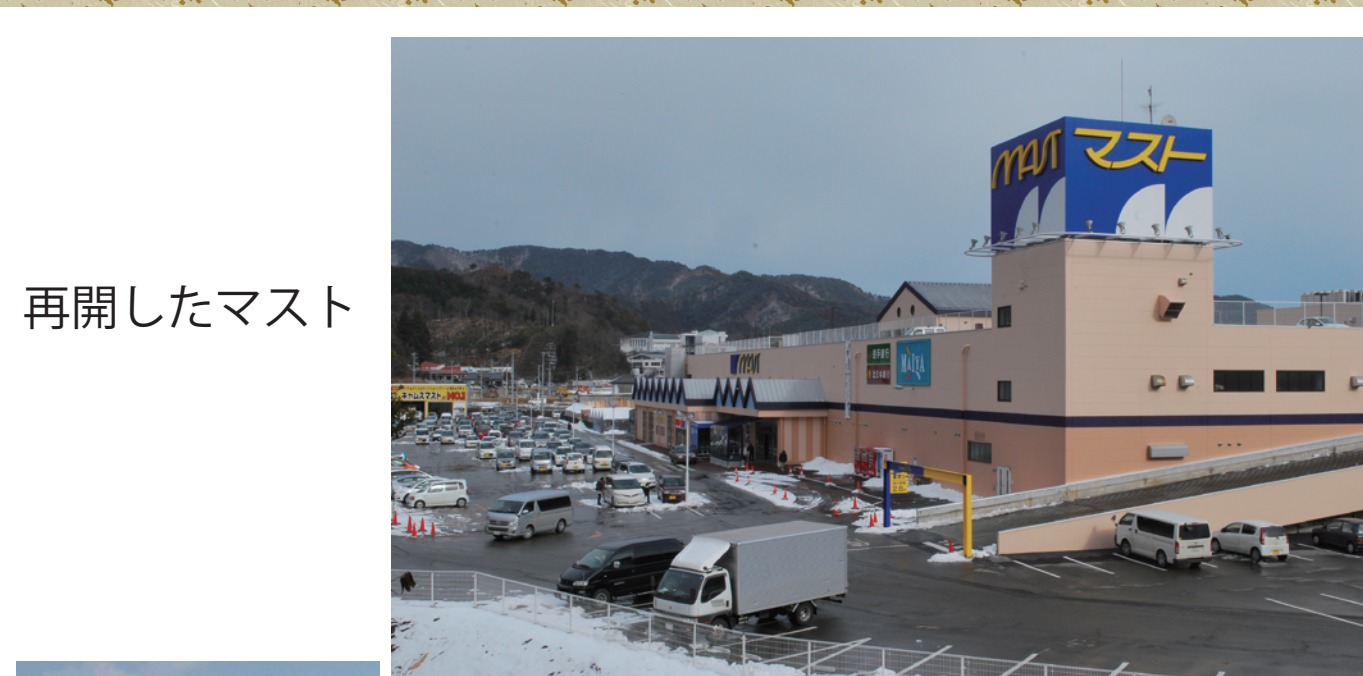
2階建ての建物の1階部分は、津波で完全に浸水し、瓦礫で埋まってしまった。火災も発生し、ホームセンター部分が全焼するなど甚大な被害にあった。震災時、ショッピングセンター内に、お客様と従業員約400名居たが、速やかに避難誘導し、幸い全員無事に避難できた。

●グループ補助金を活用された感想は？

地域の皆様から早期の再開の要望を頂いたが、復旧費用には建物、設備合わせて約10億円かかり、自力での復興を諦めていた。グループ補助金の話を聞き、マストに入っている商店など30店でグループを形成し、補助金を申請した。約6.7億円の交付決定を受け、昨年12月に再オープンすることができた。再開し、一番良かったのは、地域のお客さんに非常に喜んでいただき、「再開するのを待っていたよ」と多くの方から声をかけていただく。営業再開後、お客様、売上とも順調に推移。何よりやっぱり、今まで不便されていた地域の皆様に喜んでいただいているのが一番嬉しい。地域にとっても、これから復興する上で、大きな光になったのではないかと。また、当社はそういった役割も担っていると感じている。

●復興への思い

新しいマストには、地域のコミュニティ復活に活用していただけるスペースを増設し、公民館等として無料で提供し、屋上には、防災備蓄倉庫を設置し、水や毛布などの防災関連商品を備蓄した。「マスト」のモットー『地域の人々と共に！』の重要性が益々高まったと思っている。地域と共に復興を遂げるために、全社一丸で取り組むと誓いを新たにしている。



震災直後のマスト